

鳥取県における「学び直しを考える」夜間中学シンポジウム（概要）

小中学校課

1 ねらい

学びの機会確保の必要性や夜間中学の意義、鳥取県立夜間中学に関するアンケートの結果で示された鳥取県におけるニーズの現状、国の動向や他の自治体における取組を紹介することを通して、教育の機会の確保に資する鳥取県立夜間中学の在り方について県民に広く周知する。

2 日時及び会場

	東部会場	西部会場
日 時	令和3年9月25日（土） 午後1時30分から午後3時50分まで	令和3年9月26日（日） 午前10時から午後0時20分まで
会 場	鳥取県立生涯学習センター 県民ふれあい会館5階講義室、4階大研修室	米子市淀江文化センター さなめホール

※ 東部会場はオンラインによるライブ配信を実施

3 参加対象者

県民、鳥取県立夜間中学設置検討委員会委員、市町村（学校組合）教育委員会職員、アンケートの調査に回答していただいた方の内、情報提供を希望された方

4 参加者

	来場者	オンライン	計
東部会場（1日目）	32名	24名	56名
西部会場（2日目）	33名		33名

合計89名

5 行政説明

- 令和2年度に県立夜間中学に関するアンケート調査を実施し、本人121名、支援者等216名、計337名の回答があり、形式的卒業生17名を含む37名から夜間中学に通ってみたいとの回答をいただいた。
- アンケート調査により、夜間中学設置を求める一定程度のニーズがあることが把握できたことから、形式的卒業生、義務教育未修了者、外国籍の方を対象とした県立夜間中学の設置に向け、具体的検討を進めている。
- 第3回鳥取県夜間中学設置検討委員会において、以下の県立夜間中学設置に向けた方針（事務局案）がまとまった。
 - （1）設置形態：県立の夜間中学とする。
 - （2）対象者：義務教育未修了者、形式的卒業生、外国籍の者
 - （3）設置場所：鳥取市（鳥取県教育センター情報教育棟を想定）
 - （4）生徒・教職員：（生徒数）開校時の学級数を3学級（3学年）とし、各学年10名程度とする。
（想定）：（教職員）上記に対応した教員配置とする。
校長1、教頭1、教諭6、養護教諭1、事務職員1
※不足分は会計年度職員対応
 - （5）教育活動：（授業時間）17：30～20：45
（想定）9教科の学習をする（1コマ：40分授業：1日4コマ、週20コマ、年700コマ実施）
※ICTを積極的に活用する等、新たな学びの形の県立夜間中学設置をめざす。
 - （6）開校時期：令和6年4月
- まずは県内に1校、夜間中学を設置することをめざし、東部地区に県立夜間中学設置後、中・西部地区においても入学のニーズが高まることを想定し、分教室の設置の検討を継続する。

6 基調講演

テーマ：「学びの機会確保の必要性と夜間中学設置の意義について」

講師：文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室長 白井 俊 氏

- (1) 夜間中学を取り巻く現状について
- (2) 夜間中学の必要性
- (3) 夜間中学設置促進に関する文部科学省の主な取組
- (4) 具体的な事例について
- (5) 夜間中学への期待

7 パネルディスカッション

<テーマ>

「鳥取県におけるこれからの夜間中学の在り方」

<コーディネーター>

鳥取県教育委員会教育次長 中田 寛

<パネリスト>

- ・ 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室長 白井 俊 氏 (1日目のみ)
- ・ 公益財団法人鳥取県国際交流財団事務局次長 岩本 由美子氏 (2日目のみ)
- ・ 徳島県立しらさぎ中学校教頭 藪内 純一郎氏
- ・ NPO法人鳥取青少年ピアサポートとっとりひきこもり生活支援センター所長 山本 恵子氏

(1) 展開骨子

- ア 趣旨説明、登壇者紹介
- イ 鳥取県立夜間中学設置に向けた方針について
- ウ 鳥取県における夜間中学の方向性（設置に向けた課題）
- エ フロアからの質疑応答

(2) 質疑・応答 ※詳細は（別紙1）参照

<パネリスト質疑・応答>

ア 夜間中学へのアクセスについて

- ・ 県立で設置することにより、広域になる。鳥取県の場合、鳥取市と米子市が東西に分かれる形になっている。県内の様々な方々にどうアクセスしていただくかが大きな課題としてあるのではないか。

イ 夜間中学の認知度を上げることについて

- ・ （ひきこもり支援センターは）東部中部西部に拠点を置いて相談対応している。小地域に出向き、情報を届けて対象者をつなぐ努力が必要。潜在的なニーズの方々に知っていただくのが課題。
- ・ 県民に広く周知することのピンポイントでニーズのあるところに近い関係団体に積極的に働きかけていくことの両方で理解を深めていただく。いろいろなところに向いて直接話をして草の根でやっていく。すでに入学している生徒さんからも働きかけをする団体等の情報を得ている。広く周知を図るという点ではマスコミの力は大きいと考えている。

ウ 遠隔学習、分教室について

- ・ 遠隔学習について、必要性は認識しているが、現場の先生からは個別対応をしている状況で、オンラインでの学習に対応するのは難しいのではないかと聞いている。生徒にとって遠隔学習が望ましい形なのか考えることが重要であり、対応にあたる先生や生徒の声をしっかり聴く必要がある。
- ・ 遠隔地からの希望者の中には断念する方もあるが、なかには、片道2時間かけて通う方もある。まずは、しらさぎ中学を軌道に乗せて、夜間中学というものを確立した上で、遠隔地のニーズ等に対する対応を検討することとした。就学援助については、市町村負担でお願いしている。通学費については、就学援助から出ている。市町村との連携が重要。

<フロア質疑・応答>

- ・ 夜間中学にかかる費用についても発信してもらいたい。
→通学費等について、通学する人数を考慮し、検討を進め、決まったことについては県民の皆様に広報してまいりたい。
- ・ 夜間中学が令和6年度に鳥取市に開校した場合の中西部在住者への配慮をお願いしたい。地域社会との連携もしてほしい。
→中西部についても学びの保障という観点から検討を進めていく。地域社会との連携について

はしっかり周知・広報を図りながら進めてまいりたい。引き続きご理解とご協力をお願いしたい。

(3) 事後アンケート ※詳細は(別紙2)参照

ア 回答者数 53名(参加者89名)

イ 地域 県内43名(東部23名、中部7名、西部13名)、県外6名、未回答4名

ウ 所属等

- ・夜間中学の対象者 1名 ・夜間中学の対象者の支援者・保護者等 3名
- ・学齢期の不登校生徒 0名 ・学齢期の不登校生徒の支援者・保護者等 2名
- ・学校関係者(校長・教頭・教諭等) 6名 ・教育委員会 19名
- ・一般 16名 ・報道関係 0名
- ・その他 3名(外国人技能実習生向け日本語教師、元公立中学校教員、民間団体)
- ・未回答 3名

エ シンポジウムの開催を知った方法(複数回答)

- ・公民館等に配付されたチラシを見た 12件
- ・新聞に掲載された広告を見た 4件
- ・新聞に掲載された夜間中学に関する記事を読んだ 14件
- ・県教育委員会のホームページを見た 14件
- ・県教育委員会のツイッターを見た 0件
- ・知り合い等に紹介してもらった 16件
- ・その他 8件(小中学校課からの通知、小中学校課からのメール、県教委広報誌「夢ひろば」)

オ 【基調講演】講演の内容について、参考にしたいことや考えたことなど(抜粋)

- ・夜間中学の設置はどのような状況の方であれ、学びを提供し、多様性に配慮し、一人ひとりに適した学びを進めることができる第一歩だと感じた。
- ・国が進めている内容がよくわかった。現状とニーズ、今後へもっと広げていくために、指導者の確保が必要であると思った。
- ・人は生涯を通して学び続けるという人としての権利を保障し、支援するものの1つとして夜間中学あることがわかった

カ 【パネルディスカッション】パネルディスカッションの内容について、参考にしたいことや考えたことなど(抜粋)

- ・学びたいけども集団で学べない人たちにとって、学び直しができる場であったり、社会とつながる「きっかけ」の場になったりすることを期待する。
- ・県立という公立のネットワークを生かし、近隣の市町や企業、関係団体と連携し、設立する夜間中学が10年、20年と続く仕組みが必要だと感じた。
- ・しらすぎ中学校の取組は大変参考になると思った。チラシ、ポスター、小地域への訪問の他、マスコミとの連携(テレビ、新聞など)等で認知度を上げるとよいと思った。
- ・ひきこもり支援センターの所長さん、国際交流財団の次長さんの実態に即した説明は、劇的改善というより「希望の光」として受けとめられていると感じた。
- ・ひきこもり、外国籍の方等いろいろな立場からの話が聞けて良かった。学びたい気持ちはあってもエネルギーがたまるまで動けないという話はすごくわかる。
- ・夜間中学の認知度については、どの自治体も課題であることと同時にニーズの掘り起こしと直結するものと考え。交通網が脆弱な地方では、夜間に通学することの困難さがあると改めて認識させられた。

キ 【感想等】鳥取県における夜間中学の設置にむけて、期待することなど(抜粋)

- ・下校時には、公共交通(バス、JR等)もほとんど動いていないと思う。特に遠方から通学してくる生徒の交通費または交通手段の補助・支援等について、国や自治体はどのように考えているか知りたい。
- ・(夜間中学の)認知度が高まるよう、マスコミとも協力しながらPRしてほしい。
- ・正規の先生だけでなく、一般の市民も教室のサポートに参加できないか。
- ・「学びたい」に応えていくため、アクセスの課題は鳥取にとって重要と考える。「ICTの活用」は有効と思う反面、「学級集団」という面でのつながりも考えていく必要があると思う。
- ・形式的卒業者にとっては、高校進学のために結びつくよい体制だと思う。
- ・中学校の先生方に夜間中学という進路選択、流れを周知してほしい。
- ・学び直しを希望されている県民を支援することで、人を大切にする鳥取県がまた一つ充実・発展するきっかけになることを期待している。